

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 2月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670800216		
法人名	医療法人社団 寿山会		
事業所名	グループホームすまいる		
所在地	〒939-1377	富山県砺波市寿町2-38	
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成28年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は入居者の気持ちや願いに心を寄せて叶えられるように努めている。ゆえに職員と入居者は馴染みのつながりを深め家族の方にも協力を得て安心で居心地の良い暮らしができるよう心がけている。また日常的な外出活動にもその人らしさを引き出し楽しむ機会として取り組んでいる。健康管理面では併設施設（診療所・老人保健施設）との連絡を毎日密に行ない入居者の健康状態を全施設で見守る態勢を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者一人ひとりを大切に、共に喜び、家族のように心を通わせながら、和やかな表情と親愛の情がこもった言葉遣いで支援している。できる範囲で、皆で廊下を掃除したり、チューリップ公園や菖蒲まつりなどに出かけ、季節の花々を愛でるなど、張り合いや楽しみごとを暮らしの中に取り入れている。また、近くの幼稚園児や畑作業をする近隣の人達と日常的に交流するなど、「町の住人」として、地域の中で過ごせるように配慮している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

グループホームすまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を基に現実に則したグループホームの介護理念を作りあげている。毎月のミーティングで読み合わせをして自らの取り組みを振り返り、繰り返し意識づくりに努めている。	「和顔愛語」の理念を基本に年度目標を決め、月一回のミーティングで改善点を出し合い管理者も具体的に指導し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとの地域の様々な催しに継続的に招待いただいたり近隣住民の中に入居者と友人の方が何人もいるなど親しいつながりを大切にしている。	事業所至近の砺波警察署の七夕飾りに参加、福野高校実習生の見学訪問受け入れ、近所住民からの野菜・果物の差入れや事業所菜園の野菜を幼稚園に届けるなど日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年々実習生やボランティアの受け入れ人数が増えている。その方々の年齢や経験に応じて少しでも実りのあるふれあいを生み次の意欲につながる実習になるように支援している。地域行事の参加時には自然なふれあいやお手伝いを受け感謝している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議に提案する議題について状況報告をしているが各方面からより深く関心を持ち質問意見を活発にいただけており取り組みの参考になっている。	事業所行事日程に合わせた開催で家族が参加しやすい配慮がある。スライドショーを取入れ事業所行事等をわかりやすく伝える工夫があり、意見交換も活発で議事録も詳細である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所（地域包括支援センター）からの参加が必ずある。また居宅サービス時から困難ケースには情報提供して継続的に関わってもらっている。	特殊事情の利用者・家族には潤滑油の役割を市担当者に担ってもらうなど事業所の実情を積極的に伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による入居者の心の痛みや弊害について定期的に勉強会を行い振り返る機会を設けている。外へ出たい人・家に帰りたい人への関わり方として職員自身が穏やかであるように心がけている。	「身体拘束廃止改善」マニュアルを独自に作成しミーティングや勉強会で言葉による拘束事例も含めて理解、確認に努めている。トイレ、玄関に鈴をつけ利用者の行動把握に留意し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて「虐待防止」について学んでいる。管理者は日頃から入居者の精神状態に向き合う中で職員が虐待を起こしてしまう危険性があることを伝え全職員の課題として提示し対応の工夫を話しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出前講座の機会を得て職員は講習を受けた。家族会ではパンフレットを配布し個々の必要性について知らせる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	支援相談員と管理者が同席して契約の説明や締結をしている。その都度の具体的な質問にも丁寧に応じている。利用料については変更時にも事務主任が納得得られるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からも率直な意見を得られるような話し合いの機会を大切にしている。家族には日常の出来事や対応を伝えると共に運営に関しても疑問や要望を伺っている。その内容は介護記録や連絡ノートに記入して全職員が把握の上今後の運営に役立てている。	家族面会時に要望を聞き取り利用者の食事に反映させたり、広報「すまいるだより」により家族とのコミュニケーションを図り要望を汲取り運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやリーダー会議にてホームの運営面についても意見を出し合い改善策を話し合い実行につなげている。	管理者はミーティングで職員全員に発言を求め意見、提案を吸上げたり、法人グループの「衛生委員会・拘束委員会・看取り委員会」に参加し代表者にミーティング内容を踏まえて報告し、意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月1回の連絡会議や安全衛生委員会等の会議にて管理者や担当者と話し合う機会がある。職員の介護力・モラル・健康環境等働きやすい環境づくりについて話し合いがされている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成・資格取得のための研修には勤務の調整をしながら積極的に参加している。施設内の勉強会にも研修委員主導のもとグループ別の研修内容にて個々に学びあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市役所主催による地域の施設との勉強会やケア会議に参加している。意見や情報の交換は現状を見直しする大切な機会ととらえている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人や家族と面談するのみでなくお試し体験の提案をしている。本人の不安やこだわり・家族の思いを受け止めて安心した暮らしづくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの利用にあたって不安な事や困っている事を相談しやすい雰囲気づくりや声かけをしている。家族の意向をよく聞き家族と共に本人の暮らしを支えていくように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴をわかりやすく説明すると共に本人の現状を多職種職員と共に見極め適したサービスが提供できるように本人や家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースを大切にしている。自分のできる力を活かした暮らし方を職員や入居者同士が尊重し合い協働する事を楽しむ関係にある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日頃の様子を小まめに伝えている。行事活動にも参加を願い現状を把握していただいている。体調の悪い時には本人と共に過ごす時間を持ってもらえるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	入居前からの人や場所との関係や習慣は入居しても継続できるよう家族と相談しながら支援している。また地域の馴染みの友達の面会も積極的に受け入れている。	馴染みの美容院・床屋には家族と同行しこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れ無いよう支援に努めている。併設事業所の行事に参加することにより馴染み関係が深まるなど臨機応変の対応がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行に伴う思い込みによるトラブルは起こりやすいが職員は未然に防いだり早期に解決できるように間に入って互いに気分良く暮らせるように見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他施設に移られてもその場に安心して暮らせるように本人や家族への面会に通い不安材料の軽減に協力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当職員を中心にカンファレンス等で本人の暮らし方や思い・希望について話し合っている。得られた情報は介護記録やカンファレンスノートに書き込み全職員が把握してケアプラン実行に役立てている。	年に1回程度、利用者アンケートをもとに、事業所での暮らし方の希望や満足度などを聞き取っている。また、日々の利用者の言動や表情などを記録し、カンファレンスなどで、本人の思いや意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親せき・知人からこれまでの暮らしぶりを情報収集している。「センター方式」を利用して記録し生活歴や生き方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの朝の目覚めから24時間を通して見守り記録している。本人のできる事を日課としてリズムよくすごせているかを職員全員が関わりの中で把握し体調の良し悪しや気分の有りようにも心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望みや納得いく暮らしができるようなケアプラン作りに努めている。現実には即した課題か？家族の要望に沿えているか？等を細かくモニタリングしている。	利用者の状態に合わせて、毎日の申し送り時や毎週のカンファレンス時に介護計画のモニタリングを行ない、また、家族からの要望や法人内の看護師や理学療法士からのアドバイスを取り入れて、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護記録を記入している。今年度の介護目標①に「大切なことを伝えあえる記録づくり」を掲げその人の情報を全職員が読みとり実践につなげるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や地域の人等の訪問や外出・外泊には臨機応変に対応している。電話や手紙のやり取り等家族の協力を願い心の安定につなげている。個別のリハビリメニューや体操・現状把握のために併設老健の理学・作業療法士の助言を得て取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの地域や人とのつながりが継続できるように家族や主治医と相談し整えている。馴染みの美容院やスーパー等にも出かけられるように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所以外にも本人や家族の要望に合わせて他医療機関を受診している。できる限り家族にも同行願いや直接医師より説明を受けてもらっている。	利用者や家族の希望に沿って、医療連携している法人内の併設診療所で受診している。総合病院や皮膚科、歯科医には家族に同行してもらうなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診時以外にも併設診療所の担当看護師の訪問があり職員や入居者は体調や心配事について相談している。毎朝主治医に全入居者の心身の状態を報告している。また毎夕併設の老人介護保険施設看護師にも同様の報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には健康・医療面等の情報提供をしている。家族の要望に応じて病院関係者との入退院計画や経過対応等に積極的にかかわっている。また退院後の医療的介護についても情報提供の支援がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には日頃から些細な事でも健康状態を報告し現状を受けとめていただいている。管理者は終末・緊急時対応についてのホームの方針を早い時期から話し家族の思いも確認するようにしている。	利用者の状態の変化があれば、速やかに家族に報告している。また、本人や家族の希望に沿って、可能な限り事業所での暮らしを支援しているが、体調や医療面などで事業所での支援が難しくなった場合には、家族と主治医が相談し、今後の方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リーダー研修の課題として全職員で緊急時マニュアルの見直しと誰もが動けるマニュアルづくりに取り組んだ。また勉強会でも定期的に振り返って学ぶ機会を持ち実践に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	業者による防災設備の点検を定期的に受けている。またマニュアルに沿って月1回様々な火災を想定して避難訓練をしている。併設介護老人保健施設との合同訓練では消防署の立ち入りのもと年2回行い指導を受けている。	併設の介護老人保健施設と合同の避難訓練には、消防署の立ち会いがあり、連携も含めてアドバイスを得ている。また、火気の取り扱いに注意するなど、災害に備えている。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度の介護目標②に「共に心地良くなるあったかい介護」を掲げ職員の言葉かけや態度は職員主導ではなくその人の気持ちを尊重した失礼のない関わりを心がけるように促している。	利用者一人ひとりを大切に、共に喜び、家族のように寄り添いながら、利用者の人生を尊重する支援に努め、日々、和やかな表情と親愛の情がこもった言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誰にもひと声かけて意志を確認したり同意を得てから行動するように心がけ自由な暮らし方を提供している。その人が理解できる問いかけ方や「声を聞く」「待つ」姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の望む過ごし方に沿うように体調や気分に合わせて見守っている。本人の思いにできる限り応じられるように日課の流れは余裕を持って関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床の洗面や三食後の歯磨き・夜はパジャマに着替える等の基本的な習慣を大切なこととして関わり「すっきり」「きれい」に過ごしている。本人のこだわったおしゃれの習慣は家族にも協力を得て継続している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆の集まるリビングで調理の様子を見たり、できる作業にかかわることで食事を楽しみにする雰囲気がある。季節行事や個々の誕生日等のイベント、あるいは突然に献立を変更して楽しい食事を撮っている。	大家族の食事どきのような雰囲気づくりに努め、下準備やテーブル拭き、食器洗いなどを皆ができる範囲で行って、食事が楽しくなるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養を考えた献立がある。個々の嚥下能力に応じた摂取方法について助言を得てその日の十分な摂取量が取れるように工夫している。水分摂取を好まない人にも一日を通して確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは重要な習慣として認め一人ひとりに付き添って行っている。義歯の衛生管理と共に口腔内の異常の点検をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握してその人に合わせた排泄がトイレでできるようにしている。トイレでの一連の動作がスムーズにできるように使うオムツ類もその人に適した物を提供している。	トイレでの排泄に努め、ケア方法や使用するパット類などをカンファレンスで話し合い、利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給・食物繊維の多い食品の摂取等で便秘対策をしている。家族から定期的に効果的なヨーグルトが届く人もある。緩下剤による負担がないようにできる限り自然排便を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間には余裕を持ち気分良く入浴できるように無理強いせず案内している。個々の入り方やプライバシーに配慮しつつ身体状況に合わせて安全な入浴を見守っている。	利用者一人ひとりの入浴の好みを把握し、入浴時間、湯温などに配慮している。また、利用者の自立心や羞恥心を大切に、過度な介助にならないように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の睡眠のリズムをつかみ日中は活動的に過ごせるようにしている。個々の身体状況に配慮しつつ適度な休息を促す人もある。眠れない人には職員は一緒にすごし安心していられるように見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用・扱い方について説明書や併設診療所の担当看護師を通して把握に努めている。服用内容の変更時には体調変化が表れないか特に注意深く見守っている。個々の服用内容は介護記録に必ず記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや過ごし方を理解して負担にならない程度に役割を担ってもらっている。得意な事を表出する機会をつくったり称賛し合える場づくりを心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へは自由に出られるよう施設はしていない。本人の気分により戸外に出たい時は職員が付き添って出ている。外出希望時は内容によっては家族に協力を願い定期的な外出を楽しんでもらっている。新聞の広告を見て欲しい物の買い物に職員と出かけている。	すまいる花壇と名付けて、チューリップなどを植え、手入れをしたり、皆で、砺波夜高祭りや菖蒲まつりなどに出かけている。また、その日の気分や体調を見て散歩するなど、日常的に外出するように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や大切な品物・書類が手元がないと不安になる人には本人のできる範囲で所持されている。家族には面会のごと確認を願っている。日常の身の回り品や嗜好品等は職員と一緒に買いに出かける機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て家や知人に自由に電話をかけられるようにしている。また季節の挨拶状や行事の招待状など少しでも本人の書いた証しを表出できるように楽しんで書いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掘り炬燵に自分の座布団と落ちつける食卓、大きな窓から季節の風を感じ、草木・畑の景色を味わいながらみんなが集っている。玄関やトイレ・浴室等は入居者・職員共に安全に動ける空間がある。また不安なくその場に過ごせるように心とむ貼り絵やさりげない案内表示がある。	玄関やリビングには、山茶花や桜の花を生けるなど、季節を感じてもらおうように努めている。台所からは、ご飯の炊きあがる匂いや、トントンと野菜を切る音などがリビングに流れ、家庭的な雰囲気をつくっている。また、室温や日差し、テレビの音などにも配慮し、利用者が快適に過ごせるように心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の座布団を持ち込み安心してその場に居られるように配慮している。自席以外にも玄関廊下等に椅子やソファを配置して何処でも過ごせるようにしている。職員室も開放してその人らしい使い方をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と持ち込む品物や家具について話し合い本人が安心できる部屋づくりをしている。本人の身体レベルに合わせた安全で動きやすい空間づくりを職員も共に考え合っている。	利用者の身体の状態の変化に合わせて家具の配置を変えたり、利用者手作りの色々な人形を棚に飾るなど、利用者が安心して暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体レベルに合わせて浴槽に手すりや個別の移乗台を設置したり靴の脱ぎ履きが安全にできるように椅子を置くなど自らの力でできるように配慮している。さりげない目印で場所や操作方法がわかるように工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームすまいる  
作成日 平成 28年 3月 1日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	27	* その人が見えてくる記録をしたい。 * 行った介護を的確に書きたい。	* 大切な事を伝えあえる記録ができる。 * チームの一員として自分の記録も大切な情報源となることを自覚して書ける。	* 記録の目的・重要性を学ぶ。(ホーム勉強会) * 記録に対しての各自の苦手意識を表出しあう。(ミーティング) * 様式の見直しをする。(リーダー会議) * 何をどのように記録するのかを検討し全員に周知する(リーダー会議→ホーム勉強会) * 記録の事例をもとに具体的に書き方を学びあう。(ホーム勉強会)	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。